

平成18年度病害虫発生予報第9号

平成18年10月5日
鳥取県病害虫防除所

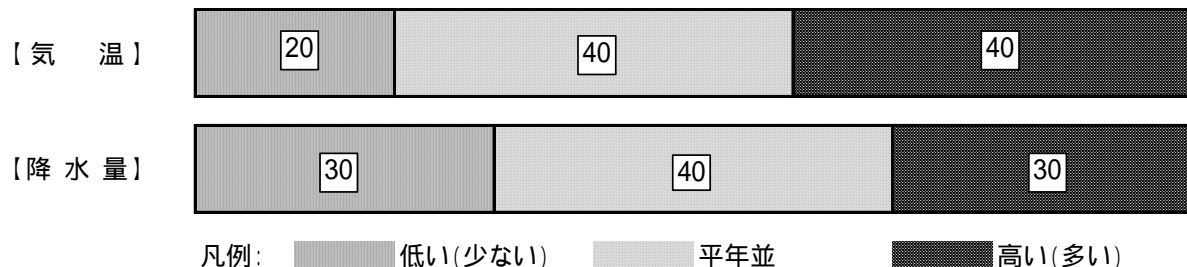
予報の概要 [参考]

区 分	農 作 物 名	病 害 虫 名	発 生 時 期	予 想 発 生 量
野 菜	キャベツ ブロッコリー	軟腐病	平 年 並	平 年 並
		黒腐病	平 年 並	平 年 並
		べと病	平 年 並	平 年 並
		コナガ	平 年 並	やや少ない
		ヨトウムシ	平 年 並	平 年 並
	ネ ギ	黒斑病		平 年 並
		さび病	平 年 並	平 年 並
		ネギアザミウマ	平 年 並	平 年 並
		ネギハモグリバエ	平 年 並	平 年 並
	トマト・ミニトマト キャベツ	シロイチモジヨトウ	平 年 並	平 年 並
ハスモンヨトウ		平 年 並	平 年 並	
オオタバコガ		平 年 並	平 年 並	
花 き	シ バ	葉腐病(ラージパッチ)	やや遅い	平 年 並
		さび病	平 年 並	平 年 並
		スジキリヨトウ	平 年 並	平 年 並
		シバツトガ	平 年 並	平 年 並

気象予報(抜粋)

1か月予報(9月30日~10月29日:9月29日、広島地方気象台発表)
向こう1か月の気温は平年並または高い確率ともに40%です。

<向こう1か月の気温、降水量の各階級の確率(%)>



野 菜

[キャベツ、ブロッコリー]

1 軟腐病

(1) 予報の内容

発生時期 平 年 並

発生量 平 年 並

(2) 予報の根拠

ア 9月中～下旬の降雨が平年に比べてやや少なかったため、9月下旬現在の発生量はやや少ない。

イ 本病は、降雨が多いと発生が多くなる。

ウ 気象予報によると、向こう1か月の気温は平年並または高い確率ともに40%、降水量は平年並の確率40%と予想されており、平年並の発生量が見込まれる。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 害虫の食害痕も病原菌の侵入口となるため害虫防除を徹底する。

イ 圃場の排水に努める。

ウ 発生前の予防防除を行う。特に大雨や台風直後は、天候の回復を待つできるだけ早く薬剤散布する。

エ キャベツの防除薬剤は、カスガマイシン・銅水和剤（カスミンボルドー、カッパーシン水和剤）1,000倍液、オキシンドーフロアブル1,000倍液、ヨネポン水和剤500倍液、Zボルドー500倍液などを散布する。

オ ブロッコリーの防除薬剤は、ナレート水和剤1,000倍液、Zボルドー500倍液を散布する。

2 黒腐病

(1) 予報の内容

発生時期 平 年 並

発生量 平 年 並

(2) 予報の根拠

ア 9月中～下旬の降雨が平年に比べてやや少なかったため、9月下旬現在の発生量はやや少ない。

イ 本病は、降雨が多いと発生が多くなる。

ウ 気象予報によると、向こう1か月の気温は平年並または高い確率ともに40%、降水量は平年並の確率40%と予想されており、平年並の発生量が見込まれる。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 害虫の食害痕も病原菌の侵入口となるため害虫防除を徹底する。

イ ほ場の排水に努める。

ウ 発生前の予防防除を行う。特に大雨や台風直後は、天候の回復を待つできるだけ早く薬剤散布する。

エ 肥料不足になると多発しやすいため、肥料切れしないよう注意する。

オ キャベツの防除薬剤は、カスガマイシン・銅水和剤（カスミンボルドー、カッパーシン水和剤）1,000倍液、オキシンドーフロアブル1,000倍液、ヨネポン水和剤500倍液、Zボルドー500倍液などを散布する。

カ ブロッコリーの防除薬剤は、カスガマイシン・銅水和剤（カスミンボルドー、カッパーシン水和剤）1,000倍液、キノンドー水和剤40の800倍液、ヨネポン水和剤500倍液、Zボルドー500倍液などを散布する。

3 ベと病

(1) 予報の内容

発生時期 平年並

発生量 平年並

(2) 予報の根拠

ア 9月中～下旬の降雨が平年に比べてやや少なかったため、9月下旬現在の発生量はやや少ない。

イ 本病は気温が比較的低温、降雨が多いと発生が多くなる。

ウ 気象予報によると、向こう1か月の気温は平年並または高い確率ともに40%、降水量は平年並の確率40%と予想されており、平年並の発生量が見込まれる。

(3) 防除上注意すべき事項

ア キャベツの防除薬剤は、ヨネポン水和剤500倍液、ペフドー水和剤500倍液、ダコニール1000の1,000倍液、マンゼブ水和剤(ジマンダイセン水和剤、ペンコゼブ水和剤)の600倍液などを予防散布する。

イ ブロッコリーの晩生品種では、花蕾にべと病が発生しやすい。

ウ ブロッコリーの薬剤防除は、中～晩生品種では、リドミルMZ水和剤1,000倍液を使用基準(花蕾形成前まで、但し収穫21日前/3回以内)に注意しながら10月上旬～中旬から10日間隔で2～3回散布する。

4 コナガ

(1) 予報の内容

発生時期 平年並

発生量 やや少ない

(2) 予報の根拠

ア 9月下旬現在、現地ほ場における幼虫の発生数は少ない。

イ 県予察ほ場(東伯郡北栄町)でのフェロモントラップにおける成虫の誘殺数はやや少ない。

ウ 気象予報によると、向こう1か月の気温は平年並または高い確率ともに40%、降水量は平年並の確率40%と予想されており、今後もやや少ない発生量が見込まれる。

(3) 防除上注意すべき事項

ア キャベツでは結球開始期に、アタプロン乳剤2,000倍液またはカスケード乳剤の2,000～4,000倍液を散布する。

イ ブロッコリーでは花蕾抽出期までに、アタプロン乳剤2,000倍液を散布する。

ウ 上記生育期以降に発生がみられる場合は、キャベツ、ブロッコリーともに、トルネードフロアブル1,000～2,000倍液、プレオフロアブル1,000倍液などを散布する。

5 ヨトウムシ

(1) 予報の内容

発生時期 平年並

発生量 平年並

(2) 予報の根拠

ア 9月下旬現在、現地ほ場における発生量は平年並である。

イ 気象予報によると、向こう1か月の気温は平年並または高い確率ともに40%、降水量は平年並の確率40%と予想されており、今後も平年並の発生量が見込まれる。

(3) 防除上注意すべき事項

ア キャベツでは、アタブロン乳剤2,000倍液、カスケード乳剤2,000~4,000倍液、トルネードフロアブル2,000倍液などを散布する。

イ ブロッコリーでは、マトリックフロアブル1,000~2,000倍液、アフターム乳剤1,000~2,000倍、ランネート45DF1,000倍などを散布する。

[ネギ]

1 黒斑病

(1) 予報の内容

発生量 平年並

(2) 予報の根拠

ア 9月下旬現在、本病の発生量は平年並である。

イ 本病は平均気温25前後が発病適温であり、降雨が多い場合に多発する。

ウ 気象予報によると、向こう1か月の気温は平年並または高い確率ともに40%、降水量は平年並の確率40%と予想されており、平年並の発生量が見込まれる。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 根傷み、肥料不足になると発病しやすいので、肥培管理に注意する。

イ 防除薬剤は、ヨネポン水和剤500倍液、ダコニール1000の1,000倍液などを発病初期から散布する。発病が増加する場合は、ロブラール水和剤1,000倍液、ポリベリン水和剤1,500倍液などを散布する。

2 さび病

(1) 予報の内容

発生時期 平年並

発生量 平年並

(2) 予報の根拠

ア 9月下旬現在、本病の発生量は平年並である。

イ 本病は、秋季に比較的低温で、降雨が多い場合に発生が多くなる。

ウ 気象予報によると、向こう1か月の気温は平年並または高い確率ともに40%、降水量は平年並の確率40%と予想されており、平年並の発生量が見込まれる。

(3) 防除上注意すべき事項

発病前の10月中旬頃(平坦部)からジマングアイセン水和剤600倍液を10~12日間隔で2~3回散布する。その後の発生には、オンリーワンフロアブル1,000倍液またはラリー乳剤4,000倍液などを散布する。

3 ネギアザミウマ

(1) 予報の内容

発生時期 平年並

発生量 平年並

(2) 予報の根拠

ア 9月下旬現在、現地ほ場における発生量は平年並である。

イ 県予察ほ場(東伯郡北栄町)における発生量は平年並である。

ウ 気象予報によると、向こう1か月の気温は平年並または高い確率ともに40%、降水量は平年並の確率40%と予想されており、平年並の発生量が見込まれる。

(3) 防除上注意すべき事項

防除薬剤は、アグロスリン乳剤2,000倍液、ランネート45DF1,000~2,000倍液、ハチハチ乳剤1,000倍液、マラバッサ乳剤1,000倍液、アクタラ顆粒水溶剤1,000~2,000倍液などを、7~10日間隔で10月中旬頃までローテーション散布する。

4 ネギハモグリバエ

(1) 予報の内容

発生時期	平年並
発生量	平年並

(2) 予報の根拠

ア 9月下旬現在、現地ほ場における被害発生量は、平年並である。

イ 気象予報によると、向こう1か月の気温は平年並または高い確率とともに40%、降水量は平年並の確率40%と予想されており、平年並の発生量が見込まれる。

(3) 防除上注意すべき事項

防除薬剤は、アグロスリン乳剤2,000倍液、アクタラ顆粒水溶剤1,000~2,000倍液などをローテーション散布する。

5 シロイチモジヨトウ

(1) 予報の内容

発生時期	平年並
発生量	平年並

(2) 予報の根拠

ア 9月下旬現在、県西部の現地ほ場における被害発生量は平年並である。

イ 県予察ほ場(東伯郡北栄町)でのフェロモントラップにおける成虫の誘殺数は平年並であるが、被害は見られていない。

ウ 気象予報によると、向こう1か月の気温は平年並または高い確率とともに40%、降水量は平年並の確率40%と予想されており、今後も平年並の発生量が見込まれる。

(3) 防除上注意すべき事項

幼虫による葉先の被害がみられる場合は、マトリックフロアブル1,000~2,000倍液、ハチハチ乳剤1,000倍液、アグロスリン乳剤の1,000倍液などを散布する。

[トマト、ミニトマト、キャベツ]

1 ハスモンヨトウ

(1) 予報の内容

発生時期	平年並
発生量	平年並

(2) 予報の根拠

ア 9月下旬現在の発生量は、いずれの作目においても平年並である。

イ 気象予報によると、向こう1か月の気温は平年並または高い確率とともに40%、降水量は平年並の確率40%と予想されており、今後も平年並の発生量が見込まれる。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 薬剤の感受性が高い若齢幼虫のうちに防除を行う必要があるため、ほ場内を観察し、発生がみられる場合には直ちに防除を行う。

イ トマト、ミニトマトの防除薬剤は、若齢幼虫には、アタブロン乳剤2,000倍液、マッチ乳剤3,000倍液などを散布する。中～老齢幼虫がみられる場合にはプレオフロアブル1,000倍液などを使用する。

ウ キャベツの防除薬剤は、若齢幼虫には、アタブロン乳剤2,000倍液、ラービフロアブルの750～1,000倍液、デルフィン顆粒水和剤1,000倍液などを散布する。若齢幼虫、中～老齢幼虫が混在する場合には、アフーム乳剤1,000～2,000倍液、マトリックフロアブル2,000倍液などを使用する。

2 オオタバコガ

(1) 予報の内容

発生時期 平年並

発生量 平年並

(2) 予報の根拠

ア 9月下旬現在、現地ほ場における発生量は、平年並である。

イ 県予察ほ場（東伯郡北栄町）でのフェロモントラップにおける成虫の誘殺数は平年並である。

ウ 気象予報によると、向こう1か月の気温は平年並または高い確率ともに40%、降水量は平年並の確率40%と予想されており、今後も平年並の発生量が見込まれる。

(3) 防除上注意すべき事項

ア トマト、ミニトマトの防除薬剤は、プレオフロアブル1,000倍液、マトリックフロアブル1,000～2,000倍液などを使用する。

イ キャベツの防除薬剤は、コテツフロアブル2,000倍液、プレオフロアブル1,000倍液などを使用する。

[シバ]

1 葉腐病（ラージパッチ）

(1) 予報の内容

発生時期 やや遅い

発生量 平年並

(2) 予報の根拠

ア 9月下旬現在、生産シバにおける発生はみられていない。初発生の時期は、平年に比べやや遅い10月中～下旬頃と予想される。

イ 本病は降雨によって発病が増加するが、気象予報によると、向こう1か月の降水量は平年並の確率40%と予想されており、平年並の発生量が見込まれる。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 本病は予防散布が効果的であり、防除薬剤はグランサー水和剤1,000倍液、センチネル顆粒水和剤2,500倍液などを用いる。

イ 秋期発生に対する平坦地での散布時期は、最低気温の推移から10月中旬頃と見込まれる。標高の高い地域では10月上旬頃に防除を行う。

2 さび病

(1) 予報の内容

発生時期 平年並

発生量 平年並

(2) 予報の根拠

ア 9月下旬現在、生産シバでの発生は平年並となっている。

イ 気象予報によると、向こう1か月の気温は平年並または高い確率ともに40%、降水量は平年並の確率40%と予想されており、今後も平年並の発生量が見込まれる。

(3) 防除上注意すべき事項

発生初期にバシタック水和剤75の1,000倍液、バイレトン乳剤2,000倍液などを散布する。

3 スジキリヨトウ

(1) 予報の内容

発生時期 平年並

発生量 平年並

(2) 予報の根拠

ア 9月下旬現在、現地ほ場における被害は平年並である。

イ 気象予報によると、向こう1か月の気温は平年並または高い確率ともに40%、降水量は平年並の確率40%と予想されており、今後も平年並の発生量が見込まれる。

(3) 防除上注意すべき事項

幼虫の発生がみられる場合は、リラークDF2,000倍液、ダズバン乳剤40の1,500倍液、スカウトフロアブル1,500倍液などを散布する。

4 シバツトガ

(1) 予報の内容

発生時期 平年並

発生量 平年並

(2) 予報の根拠

ア 9月下旬現在、現地ほ場における被害は平年並である。

イ 気象予報によると、向こう1か月の気温は平年並または高い確率ともに40%、降水量は平年並の確率40%と予想されており、今後も平年並の発生量が見込まれる。

(3) 防除上注意すべき事項

幼虫の発生がみられる場合は、リラークDF2,000倍液、ダズバン乳剤40の1,500倍液、スカウトフロアブル1,500倍液などを散布する。

[おしらせ]

農薬は、農林水産省の登録番号のあるものを、ラベルをよく読んで使いましょう。
詳しい内容は、独立行政法人 農薬検査所の「農薬登録情報検索システム」から検索できます。(<http://www.acis.go.jp/>)

**農薬の使用に当たっては、農薬使用基準を遵守するとともに、
周辺への飛散には充分注意しましょう。**

< 鳥取県病害虫防除所ホームページ >

アドレス <http://www.jppn.ne.jp/tottori/>

病害虫の発生予察情報、現地巡回調査結果などの指導情報、フェロモントラップ結果、病害虫の診断方法などの情報をお知らせしていますので、ご利用下さい。

鳥取県病害虫防除所

〒680-1142 鳥取市橋本 260

TEL : 0857-53-1345、FAX : 0857-53-5647

E-mail : byogaichu@pref.tottori.jp 又は kttr0301@sp.jppn.ne.jp

次回の予報発表は、12月7日(木)の予定です。